

ワーク・ライフ・バランスについて

1. 仕事と家庭の両立

(1) 理想のライフコース(問26) **変更の質問

【全員に】

問26 育児と仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。当てはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 1 結婚せず、子供を持たず、働き続ける | 5 子供を持つことを機に、いったん退職するが、子供の手が離れたら働く |
| 2 子供を持たないで働き続ける | 6 子供を持ったら退職し、育児に専念する |
| 3 子供は持つが、子供の成長に関係なく働き続ける | 7 子供の有無に関係なく、結婚後は働かない |
| 4 子供は持つが、子供の成長に応じて働き方を変えていく | 8 その他() |

育児と仕事との関係で、理想の生き方を聞いたところ、日本では「子供は持つが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が51.8%で最も多く、次いで「子供は持つが、子供の成長に関係なく働き続ける」が25.8%で続く。

各国の結果を比較すると、いずれの国でも「子供は持つが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」(スウェーデン：70.0%、日本51.8%、ドイツ：50.1%、フランス42.0%)が最も高く、「子供は持つが、子供の成長に関係なく働き続ける」(日本25.8%、フランス23.8%、ドイツ：18.8%、スウェーデン：18.5%)が続くという結果であるが、「子供は持つが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」はスウェーデンで7割と特に高い。(図 - 1)

図 - 1 理想のライフコース (%)

	2020年			
	日本 (n=1,372)	フランス (n=1,000)	ドイツ (n=1,022)	スウェーデン (n=1,000)
結婚せず、子供を持たず、働き続ける	5.0	10.9	6.6	4.2
子供を持たないで働き続ける	2.6	6.9	6.7	3.2
子供は持つが、子供の成長に関係なく働き続ける	25.8	23.8	18.8	18.5
子供は持つが、子供の成長に応じて働き方を変えていく	51.8	42.0	50.1	70.0
子供を持つことを機に、いったん退職するが、子供の手が離れたら働く	7.9	13.5	11.9	1.9
子供を持ったら退職し、育児に専念する	3.1	1.3	3.8	-
子供の有無に関係なく、結婚後は働かない	1.1	1.0	0.9	0.1
その他	2.1	0.3	0.8	0.9
無回答	0.5	0.3	0.5	1.2

(2) ワークライフコンフリクト (問28SQ)

【問28で「1 仕事をしている」と回答した方に】

問28SQ この1年を振り返って、あなたはご自分の仕事と家庭生活のバランスについてどのように感じていますか。あなたのお気持ちに当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。
(○は1つずつ)

- (a) 仕事で疲れ切ってしまって、しなければならない家事や育児ができなくなっていると感じる
- (b) 仕事に充てる時間が長すぎるために、家事や育児を果たすことが難しくなっていると感じる
- (c) 家事や育児の負担があるために仕事に集中することが難しくなっていると感じる

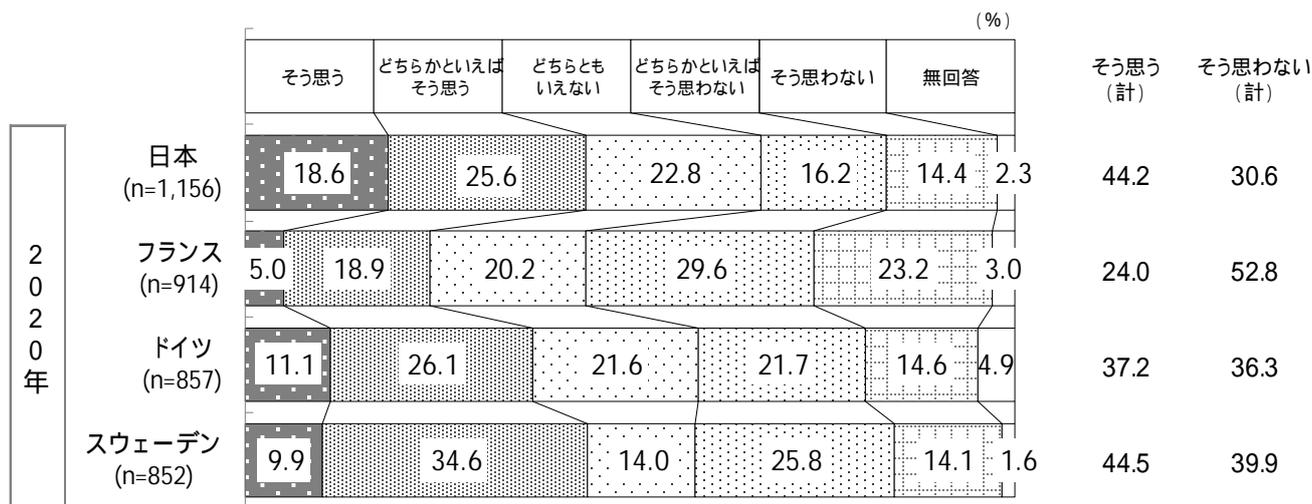
- 1 とてもそう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 全くそう思わない

仕事をしている人に、仕事で疲れ切ってしまって、しなければならない事や育児ができなくなっていると感じるかについて聞いたところ、日本では『そう思う(計)』(「そう思う」(18.6%)、「どちらかといえばそう思う」(25.6%)の計)は44.2%となっている。

各国の結果を比較すると、『そう思う(計)』は、スウェーデンが44.5%で日本(44.2%)と並んで最も高く、ドイツ(37.2%)、フランス(24.0%)の順となっている。(図 - 2)

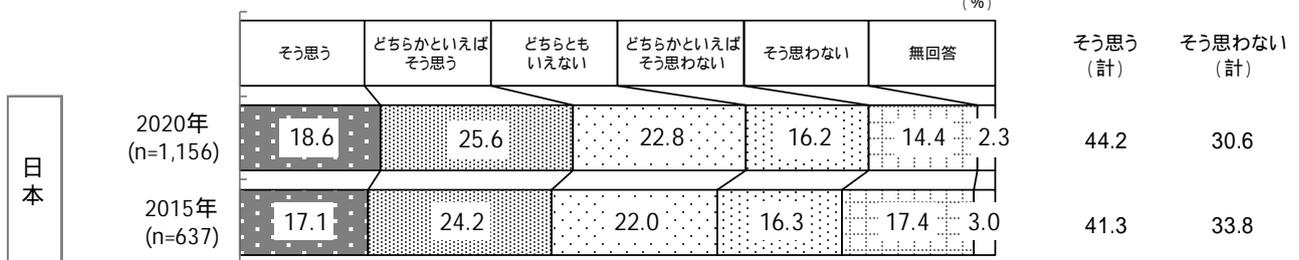
図 - 2 ワークライフコンフリクト

(a) 仕事で疲れ切ってしまって、しなければならない家事や育児ができなくなっていると感じる
(4か国比較)



日本について過去の結果と比較すると、『そう思う(計)』が 2015 年度調査からやや増加している (41.3% 44.2%) もの、大きな変化は見られない。(図 - 3)

図 - 3 ワークライフコンフリクト (a) 仕事で疲れ切ってしまうと、しなければならない家事や育児ができなくなっていると感じる(日本)



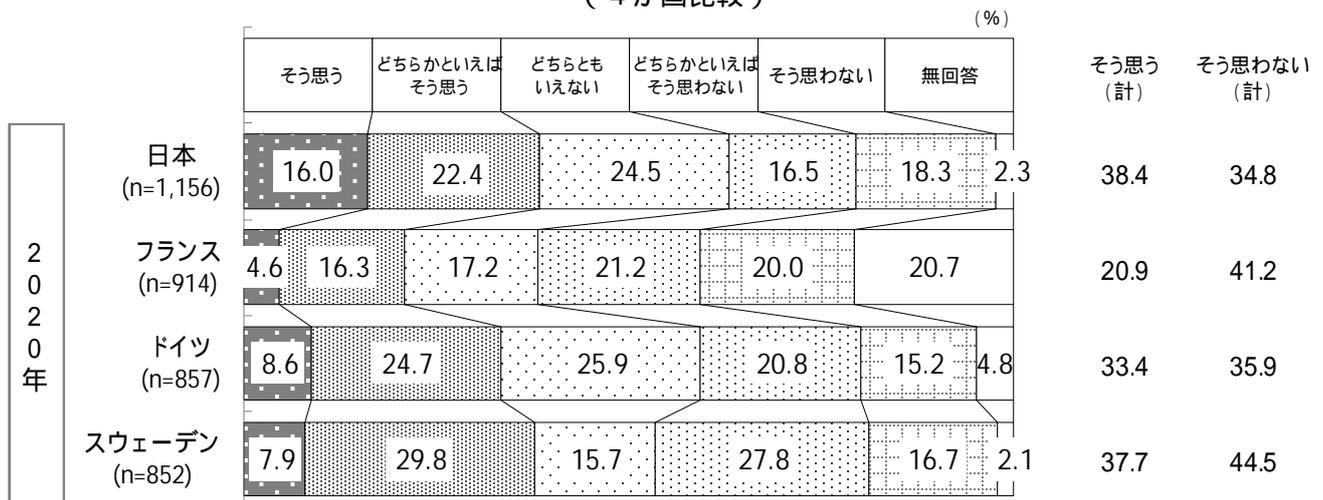
注: 「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

仕事に充てる時間が長すぎるために、家事や育児を果たすことが難しくなっていると感じるかについては、日本では『そう思う(計)』(「そう思う」(16.0%)、「どちらかといえばそう思う」(22.4%)の計)は38.4%となっている。

各国の結果を比較すると、『そう思う(計)』は、スウェーデンが37.7%で日本(38.4%)と並んで高く、次いでドイツ(33.4%)、フランス(20.9%)の順となっている。(図 - 4)

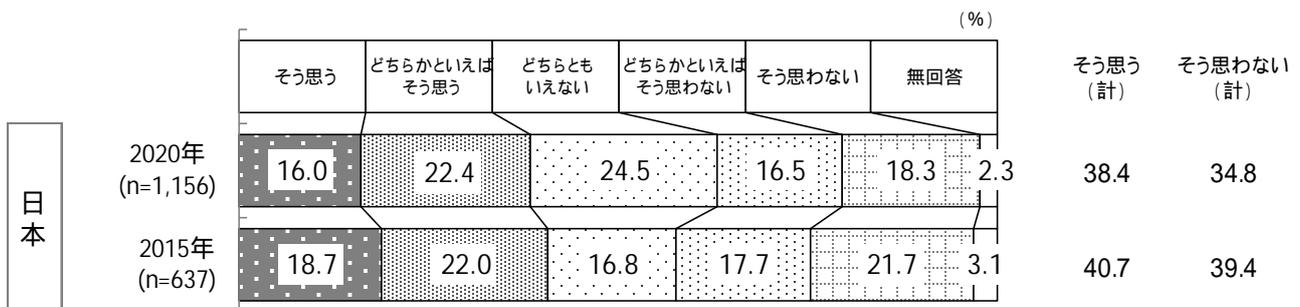
図 - 4 ワークライフコンフリクト

(b) 仕事に充てる時間が長すぎるために、家事や育児を果たすことが難しくなっていると感じる (4か国比較)



日本について過去の結果と比較すると、『そう思う(計)』の割合はやや減少傾向にある(2015年:40.7% 2020年:38.4%)が、「どちらともいえない」(16.8% 24.5%)の割合が増加しており、改善傾向は見られない。(図 - 5)

図 - 5 ワークライフコンフリクト (b) 仕事に充てる時間が長すぎるために、家事や育児を果たすことが難しくなっていると感じる(日本)



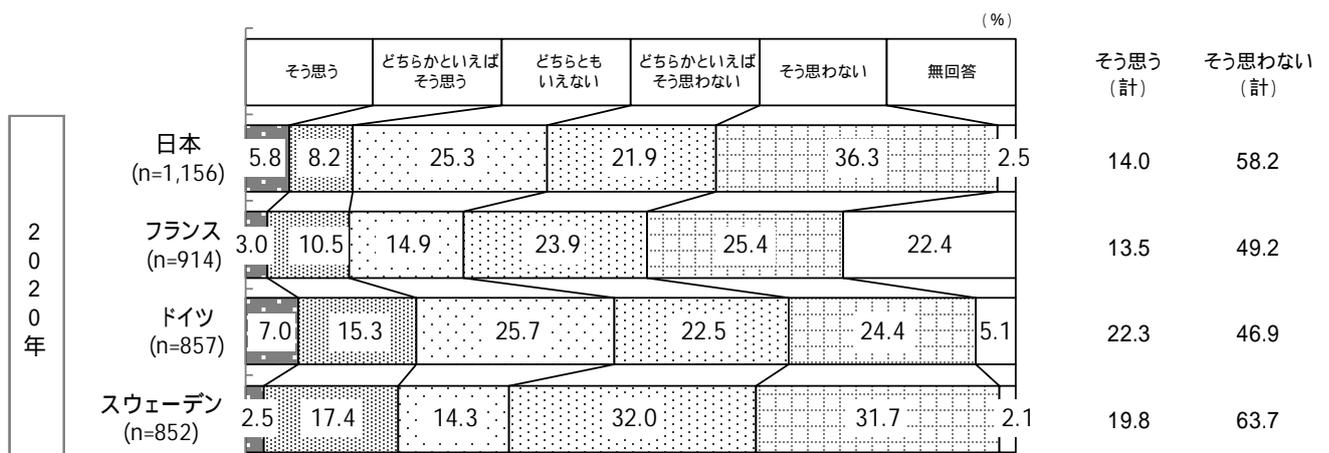
注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

家事や育児の負担があるために仕事に集中することが難しくなっていると感じるかについては、日本では『そう思う(計)』(「そう思う」(5.8%)、「どちらかといえばそう思う」(8.2%)の計)は14.0%となっている。

各国の結果を比較すると、『そう思う(計)』の割合は、ドイツ(22.3%)、スウェーデン(19.8%)、日本(14.0%)、フランス(13.5%)の順で、いずれの国でも1割台から2割強となっている。(図 - 6)

図 - 6 ワークライフコンフリクト

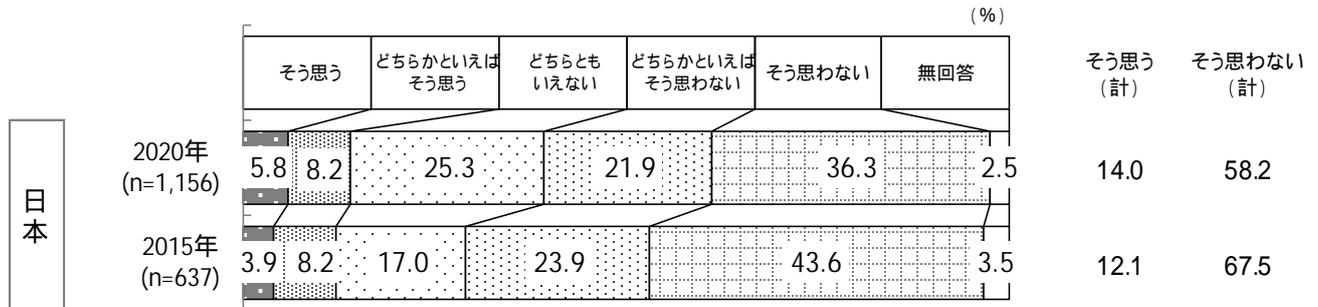
(c) 家事や育児の負担があるために仕事に集中することが難しくなっていると感じる(4か国比較)



日本について過去の結果と比較すると、『そう思う(計)』の割合に大きな変化は見られない(2015年：12.1% 2020年：14.0%)が、『そう思わない(計)』(67.5% 58.2%)の割合が減少している。(図-7)

図 - 7 ワークライフコンフリクト

(c) 家事や育児の負担があるために仕事に集中することが難しくなっていると感じる(日本)



注: 「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(3) 将来不安と失業リスク (問29)

【全員に】

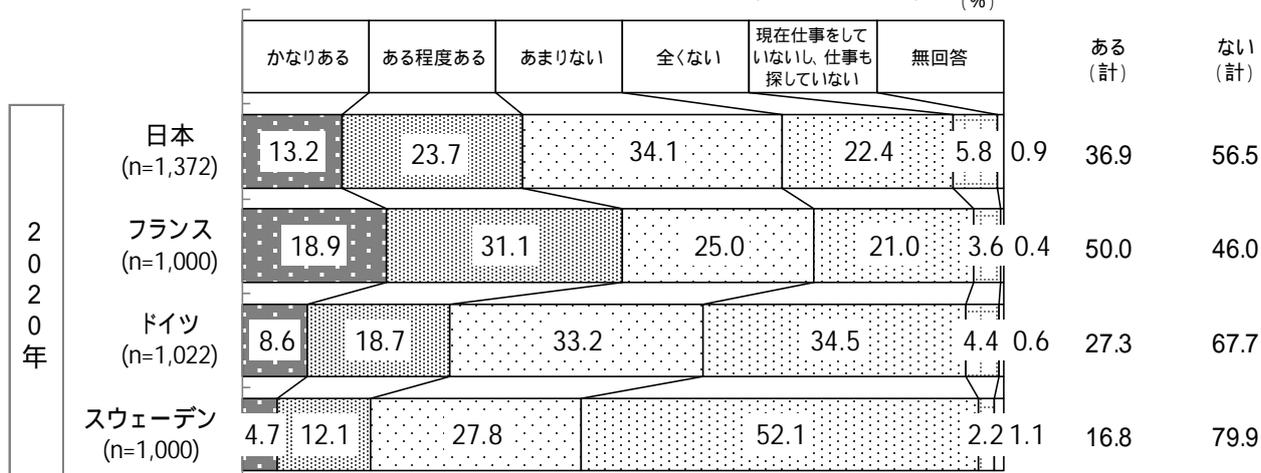
問29 今後1年間に失職したり、仕事が見つからなかったりする心配はどの程度あると思いますか。この中から1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

- 1 かなりある
- 2 ある程度ある
- 3 あまりない
- 4 全くない
- 5 現在仕事をしていないし、仕事も探していない

今後1年間に失職したり、仕事が見つからなかったりする心配はどの程度あるか聞いたところ、日本では、「かなりある」13.2%、「ある程度ある」が23.7%で、合計した『ある(計)』の割合は36.9%となっている。

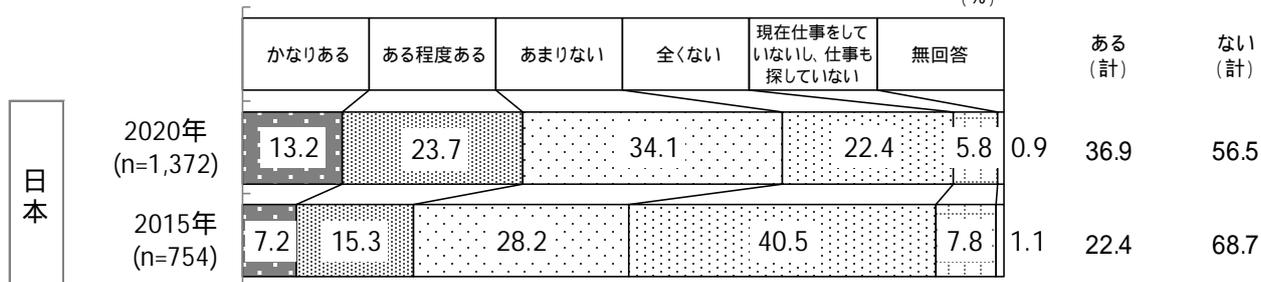
各国の結果を比較すると、『ある(計)』の割合はフランスで50.0%と最も高く、次いで日本(36.9%)、ドイツ(27.3%)、スウェーデン(16.8%)の順となっている。(図-8)

図-8 将来不安と失業リスク(4か国比較) (%)



日本について過去の結果と比較すると、2015年度調査より『そう思う(計)』の割合(2015年:22.4%、2020年:36.9%)が14.5ポイント増加しており、将来不安と失業リスク意識が高くなっている。(図-9)

図-9 将来不安と失業リスク(日本) (%)



注:「無回答」について、2015年は「わからない」という項目になる。

(4) 仕事と家庭生活と個人の生活の優先度についての希望 (問 3 0 1) * 新規の質問

問 30 現在のあなたの日常における、仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度についてお聞かせください。

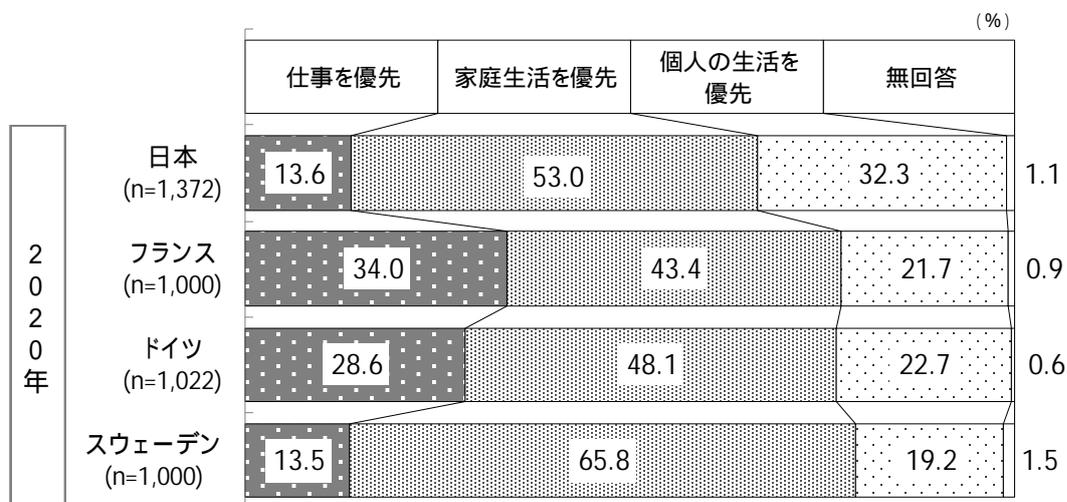
(1) あなたの希望にもっとも近いものを 1 つだけ選んでください。(○ は 1 つだけ)

- 1 仕事を優先
- 2 家庭生活を優先
- 3 個人の生活を優先

現在の日常における、仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度について、希望を聞いたところ、日本では「家庭生活を優先」が 53.0% で最も高く、次いで「個人の生活を優先」が 32.3%、「仕事を優先」が 13.6% となっている。

各国の結果を比較するといずれの国でも「家庭生活を優先」(スウェーデン 65.8%、日本 53.0%、ドイツ 48.1%、フランス 43.4%) が最も高いが、スウェーデンでは 6 割台と特に高い。フランスとドイツは「仕事を優先」(フランス 34.0%、ドイツ 28.6%) が 2 番目に高くなっている。(図 - 10)

図 - 10 仕事と家庭生活と個人の生活の優先度についての希望



(5) 仕事と家庭生活と個人の生活の優先度についての現実 (問 3 0 2) * 新規の質問

問 30 現在のあなたの日常における、仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度についてお聞かせください。

(2) では、あなたの現実にもっとも近いものを 1 つだけ選んでください。

(学生の方は、「仕事」を「学業」と考えてお答えください。)(○ は 1 つだけ)

- 1 仕事を優先
- 2 家庭生活を優先
- 3 個人の生活を優先

現在の日常における、仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度について、現実の状況を聞いたところ、日本では「仕事を優先」が 51.8% で最も高く、次いで「家庭生活を優先」が 34.8%、「個人の生活を優先」(12.2%) の順である。

各国の結果を比較すると欧州 3 か国では、「家庭生活を優先」(スウェーデン 51.3%、ドイツ 45.8%、フランス 40.4%) が最も高く、次いで「仕事を優先」(スウェーデン 32.0%、ドイツ 32.3%、フランス 38.6%) が 2 番目に高くなっている。(図 - 11)

図 - 11 仕事と家庭生活と個人の生活の優先度についての現実

